

# 文化のクリエイティビティをまちづくりにいかす —「新しい文化芸術施設」管理運営基本計画策定に向けたシンポジウム— 実施報告

## 1. 実施概要

### 1. 趣 旨

平成 34 年度開館に向け、千日前地区に整備を進めている「新しい文化芸術施設」。岡山のまちづくりに文化芸術をどのように活かしていくのか、文化拠点として「新しい文化芸術施設」に求められる具体的な事業や組織のあり方について、検討懇談会のメンバーである実演家、施設運営の専門家それぞれの視点から語っていただき、今後の岡山に望まれる施設運営を探ります。

2. 日 時 平成 29 年 12 月 17 日（日）14 時～16 時（開場 13 時 30 分）

3. 場 所 岡山シティミュージアム 4 階 講義室

4. 来場者 約 50 名

### 5. 次 第

#### （1）開会挨拶

岡山市長 大森 雅夫

#### （2）基調対談

津村 卓（聞き手：草加 叔也）

#### （3）パネルディスカッション

パネリスト

##### ■津村 卓

上田市交流文化芸術センター館長／北九州芸術劇場顧問  
一般財団法人地域創造プロデューサー

##### ■榎木 和敬

声楽家

##### ■大森 雅夫

岡山市長

進行：草加 叔也（（有）空間創造研究所 代表）

## 11. 基調対談（津村氏）

- 25 年前（一財）地域創造のプロデューサーに就任した時に日本の芸術文化はすごい勢いで動き出そうとしていると感じた。そこからの日本の社会の変化とそれに沿った文化芸術の変化の勢いは、非常に大きな変化をもたらしてきたと思う。
- 10 年先、20 年先を見据えてコンセプトをつくって進めてきたつもりだが、最近では変化のスピードに追い付いていないように感じる。今は、芸術文化が社会にどれだけ貢献できるかが突きつけられていると思う。
- 北九州芸術劇場では、劇場と地域との協働事業として、多様な施設や機関、企業や団体とパートナーシップを組み、舞台芸術の持つ創造的な力を活かした事業に挑戦している。夜景クルーズ、モノレール、動物園、美術館、航空会社、サッカークラブなどとのコラボレーション、高校生や障がい者の方との共同制作、地元の演出家などと組んでのアウトリーチ、市場でのアーティスト・イン・レジデンス、鉄の街としてのデザインプロジェクトなど。
- 北九州市は製鉄で栄えたまちであり、“ものづくり”のDNAのようなものがあり、“作品をつくる”ことに関してワクワク感を持っている市民や新しいものをつくっていくことを受け入れる人が多かった。
- 作品をつくる活動として、地域の文化資源を活用した作品づくりから世界に通用する質の高い作品づくりまで、多彩な創造活動に挑戦している。例えば、世界的な活動を展開している『山海塾』との共同プロデュース事業では、北九州芸術劇場の名前が世界各地の公演においてクレジットされるので、劇場の知名度・格を高めるとともに財産となっている。地元の高齢者から話を聞き、「まちの記憶」をモチーフに新たな戯曲をつくる事業は、若手劇作家の育成事業として行っている。インタビューを機に元気になる高齢者もあり、喜ばれるが、福祉事業でなくあくまでも芸術事業として展開している。
- 幅広い人に観てもらえる旬の作品のように黒字になる公演も必ずつくることを経営として進めており、その他の事業が展開できる原資とできるようにしている。



### 111. パネルディスカッション（津村氏、柗木氏、大森市長）

#### 【劇場・新施設の果たすべき役割について】

- 岡山にも北九州のようなアイデアや事案はあるが、個々でやっており、規模が小さい。文化団体や活動は沢山あるが、市内の各ホールがやっている事業も含め、横のつながりが無い。ホールが、いろいろな人間が関わる企画を出して各団体が関わるとか、ホールがコラボレーションする企画とかで束ねることで、今までの経験を集約し、実績を活かした活動にしていくことができるのではないか。新しい施設がその核となれば、組織的にいろいろなことができると思う。（柗木）
- 北九州芸術劇場は計画当初に“劇場としてまちにどういう存在理由として維持していくのか”という目的とミッションを明確にした。企業とのコラボなど当初は考えなかったが、社会や文化芸術が進化して、今やアウトリーチなど当たり前なものになってきている。まちと向き合うということに関しては、どうしたら市民やまちが劇場を信頼してくれるのかということに時間と労力をかけた。行政の目的とミッションがぶれなかったことが大きく、ちゃんと駒を進めていくことができた。（津村）
- もう1点は、人材育成がうまくできたことが大きい。大きな演目をやったり、自分たちで作品をつくることでしか、スタッフのスキルは上がらない。作品をつくるのは経費が掛かるが、それを人材育成のための投資と考えるべき。そうしないと、東京から人を呼び続けなくては、劇場を運営していけない。劇場を運営する人材を地元で育てて、最終的には地元の人材で運営していかないと地域の劇場にならない。10年、15年かかるかもしれないが、運営のプロを育てていくためにどれだけ投資できるのか、誰がどのように経営者として劇場をつくっていくのが重要。（津村）
- おかやまマラソンのアンバサダーである山口衛里さんに、「(マラソンは)走りだすと病みつきになる。」と言われ、実際走るとその通りとなり一つ楽しみを見つけたことができた。文化芸術も同じで、全く触れないと、好きも嫌いもないが、触れてみると楽しみになったり、専門的な人材に育っていくことが多いと思う。金沢の21世紀美術館では、小学生が授業の一環で必ず美術館に行き、そこでいろいろな議論を交わしたりすると聞いた。子ども達だけでなく大人も含めて、何か一緒に文化を創造していくことをシステムチックに組み込むようなことができれば、少なくとも人生において楽しみを見出していくことが大いにあると思う。（市長）



- 北九州芸術劇場に行った際に、職員が演劇に対してすごく誇りを持っていた。岡山市でも新しい文化芸術施設が機能することで新しい誇りを生んでいくのではないか。(市長)
- どういう入口を作ってあげることができるのかというのは難しい問題だが、現在、北九州芸術劇場では、席数や場所を決めて高校生は1,000円で公演を観られる、ということをしている。小学生にはアウトリーチという形で演劇や舞台芸術を提供するなど、それぞれ方法論を変えながら進めている。(津村)

#### 【岡山、中国地方の状況について】

- 紹介された統計データは、自分の出演頻度と一致し納得する。岡山出身の演奏家はいるが、岡山で企画がなく出演できる場が少ない。広島は公演数も多く、企画も良いオペラ公演はあるが、市が大きすぎて事業の方向性が浸透せず集客できていない。岡山はオペラ公演をすればだいた



い満員になるし、集客力がある。オペラはバレエ、オーケストラ、コーラスなどいろんな要素が入り、ヨーロッパでは総合芸術と言われる。その分お金はかかるが、(ホール・スタッフの経験になるので)ぜひ取り組んでほしい。(榎木)

- 北九州芸術劇場で事業をやっている中で、兵庫県立芸術文化センターより以西で演劇に真剣に向き合い活発に進めているところはないと感じていた。文化庁の特別支援を受けているのも兵庫県立芸術文化センターより以西は北九州芸術劇場しかない。どのようにネットワークを組んで一緒にやっていこうかと考えていた。中国地方は、決してツアーを回しにくい地域ではないはずなのに、旬の面白い公演があまり行われていないのは、受け皿がないからだと思う。演劇だけで言えば、ちゃんと向き合えば中国地方のトップになれることは目に見えている。ただし、しっかりとした受け皿をつくるのが前提。世界的、国内でもトップクラスの公演も来ることになると思うので、それをどう活かしていくかを考えていくことが必要。(津村)
- 北九州は工業の衰退していつているまちであることが面白いと思った。海外でもフランスのナントなど工業の衰退していつているまちが芸術のまちが変わった事例が多くある。工業都市が面白いと思うのは、ものをつくるという事を知っているからである。商売のまちでは、ものを作るときに、安いものを高く売ろう、お金がかかることはやめよう、という考えになる。どちらが良いかは政治が選ばれようだが、岡山は中四国でトップの劇場を作れると思っている。(津村)

## 【劇場・新施設ができることによってどう変わっていくか】

- （北九州芸術劇場が）開館後 15 年間で、取り立てて変わったところはないが、毎年実施しているアンケートに書かれている声が元気になっているのは感じている。劇場のある周辺だけのことかもしれないが、企業や商店街の人たちが元



気になり、2代目3代目が次の展開を考え、商店街のシャッターが開いてきた。市全体については（劇場が影響を与えるのは）なかなか難しいと思うが、外部から評価を受けることが刺激となって、元気になってきたイメージがあるし、いろんなことにチャレンジしようという若者が増えていると感じる。また、芸術を志向する人の定着率が高くなった。東京に行かなくてもこのまちで演劇やっているほうが楽しいと思う人が増えてきているということだが、サービス業がもっと増えないと難しいので、今は産業改革の方にいろんな手を出していっている。

（津村）

- 私の海外の拠点であるミラノはイタリアで一番の大都市で、そこにあるスカラ座は世界的に有名な伝統あるオペラの劇場だが、住民はスカラ座にオペラを観に行くことは多くない。しかし、劇場には行く。なぜなら、おいしいカフェがあったり、近くにおいしいレストランやおしゃれなものを売っている店があるからで、劇場の周りにそういう場所があってリンクすることで芸術が文化になり人に定着していくと思う。イタリアのマントバの近くにあるブスコルド市立歌劇場はまちの中心にあるが、毎日開いていない。しかし、カフェ（バル）は毎日開いていて朝から晩までまちの交流の中心になっている。劇場は人間が人間と交流する場だと思う。新しい文化芸術施設でも、稽古場に様々な文化団体の人たちが出入りして、その人たちが周辺のカフェや飲み屋で飲んだり、打ち合わせしたりして、人が行き来することで、商店やサービス業がまた出来たり・・・そういう意味で新しい施設だけ良くしても立ちいかないとと思う。幸い千日前という土地柄があるので、ヨーロッパの劇場のように、周りリンクして一緒に育っていければ理想的だと思う。（柗木）
- 木村尚三郎氏が都市の魅力をつ三つ挙げており、一つ目は安全安心、二つ目は食事、二つ目に挙げているのが歩く楽しさである。やはりまちとして歩く楽しさというのは大変重要だと思う。魅力がないと歩いても退屈だし、歩くのに何らかの目的が必要な時もある。新しい文化芸術施設は、ここへ来て練習したり、終わった後にカフェで飲んだり、まちの魅力や歩く目的になるような役割を果たして欲しい。普段から行って楽しむ、友人と周辺で遊ぶ、お年寄りから子どもたちまで集える

拠点にしたいと思っている。(市長)

- 劇場はいろんな人が集う場所で、そこに演目があり、楽しんで感動する。劇場は、公演を観る人だけが来るところではなく、いろんな職業、年齢層の人が集いコミュニケーションが取れることが一番重要なこと。そのための環境をどう作るかを考えないといけない。劇場は『ある』ものでなく『なる』もの。成長した時に初めて劇場になることを考えると、どうやって成長するのかというストーリーが生まれるのだと思う。そのためのスタッフ数 50 名は最低の人数。北九州芸術劇場は、新しい施設より小さくても 74 人いる。育成された人材が岡山のまちへ出ていくことによる効果やメリットをふまえ、人数をどう考えるかということ。安全安心という面からもスタッフ数は必要だと思う。歩きやすい道は技術で作れるが、歩きたい道は芸術文化でしか作れない。岡山の道が、物語のある歩きたい道になっていけば良いと思う。(津村)
- イタリアは、(先ほどの)都市の魅力が三つ揃っていて、歩いて楽しいまち。私は岡山ではあまり歩かないが、イタリアに行くとき歩くので痩せる。歩きたくなる道があると良いと思う。(柗木)
- 演者側から見ると、自分たち出演者は替わりが効くが、スタッフはそうはいかない。岡山でオペラ公演があまりできないのは、スタッフがおらず、スタッフを東京・大阪から呼ぶ経費が出演者より掛かるから。岡山で人材を育成できれば簡単である。岡山出身で東京・大阪で舞台関係の仕事をしている人間は多いが、岡山に職場がないから、そちらにいる。新しい施設ができ、そういった人材が帰ってきて舵を取ってくれば、メイドイン岡山の良いものができると思う。何とか実現したい。(柗木)
- 歩きたくなるまちというのは、まちを楽しむということだと思う。市民だけでなく、岡山に来られた方に歩きながら楽しんでもらうためには、そこに歴史と文化がないといけないと思う。岡山には一つ一つ見ると光っている歴史は沢山ある。そういうものを我々の誇りとして、また今まで築いてきた文化も誇りにして、今を楽しんで新たなものをつくっていく。そういうまちにしていきたいと思う。  
(市長)



#### ■パネリストプロフィール

津村 卓（つむら たかし）

1985年より大阪ガスの扇町ミュージアムスクエアを企画し、副支配人兼プロデューサーに就任。87年より兵庫県伊丹市の伊丹市立演劇ホール（アイホール）チーフプロデューサー。95年より財団法人地域創造芸術環境部プロデューサーを務める。97年から00年にびわ湖ホール演劇プロデューサー、03年より北九州芸術劇場プロデューサー、01年より長崎市文化アドバイザーを務める。07年より彩の国さいたま芸術劇場評議員。08年より北九州芸術劇場館長、現在顧問を務める。15年から上田市交流文化芸術センター・セントミュージゼ館長。

榎木 和敬（まさき かずよし）

声楽家。藤原歌劇団正団員。国立音楽大学声楽科卒業。エウロペア音楽アカデミープロフェッショナルコース修了（イタリア）。国際ロータリー財団国際親善奨学生としてイタリアに留学。スロヴェニア国立ルブリアーナ歌劇場で歌劇「椿姫」でデビューし、イタリアを始めヨーロッパ各国でオペラ公演に出演。日本でも全国で数々のオペラの主演テノールや、ベートーベン第九演奏会、宗教曲のソリストとして多数出演する。

地元岡山ではおかやま国際音楽祭や岡山フィルハーモニック管弦楽団主催のコンサート、オペラ「ワカヒメ」やルネスオペラシリーズの主演テノールなど多数出演する。

福武教育文化振興財団文化奨励賞、マルセンススポーツ文化振興財団文化賞受賞。

平成28年社会生活基本調査  
 「第14-1表 都道府県、趣味・娯楽の種類別（行動者率－男女総数(10歳以上)」

都道府県	演奏・演劇・舞踊鑑賞 (テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く)	音楽会などによるクラシック音楽鑑賞	音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞	楽器の演奏	音楽(民族、日本音楽の音楽会含む)	ダンス・エアロビクス・ヨガ	邦楽・おどり	洋楽・社交ダンス
全国	14.5	10.1	13.7	10.9	2.9	2.8	1.6	1.4
東京都	22.2	14.6	18.0	14.3	3.2	3.9	1.0	1.9
大阪府	16.7	9.6	13.6	10.0	2.8	2.9	1.6	1.7
福岡県	13.0	9.3	12.5	9.7	2.9	2.6	1.8	1.6
岡山県	12.4	8.7	12.4	10.6	2.8	2.0	2.8	1.4
広島県	12.4	8.5	11.8	10.3	2.6	2.4	1.8	1.3
鳥取県	11.4	8.2	11.7	9.6	2.4	2.3	1.7	1.1
島根県	11.4	7.6	11.2	9.5	2.4	2.2	1.7	1.0
島根県	11.0	7.8	10.4	9.5	2.4	2.2	1.6	1.0
静岡県	10.6	7.7	10.3	9.5	2.2	2.1	1.5	1.0
山口県	10.4	7.6	10.0	9.3	2.1	2.1	1.5	1.0
愛媛県	9.7	7.6	9.9	8.3	1.9	1.9	1.4	0.8
高知県	8.4	6.5	9.7	7.5	1.8	1.6	1.4	0.7

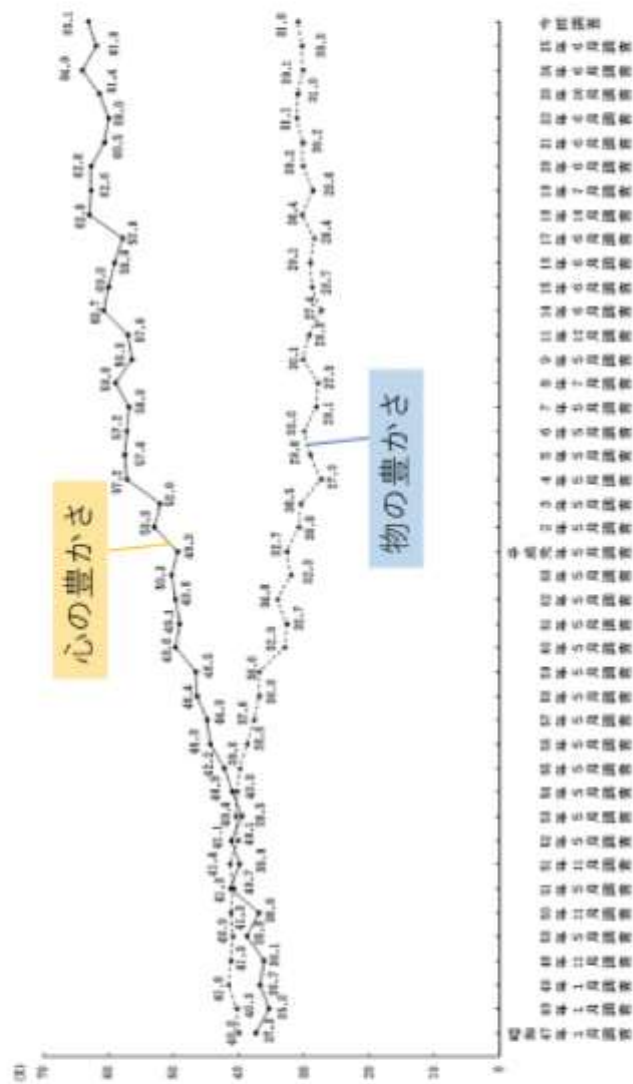


平成28年社会生活基本調査  
 「第14-1表 都道府県、趣味・娯楽の種類別（行動者率－男女総数(10歳以上)」

分類	行動分野	行動者率		全国順位
		岡山県 (%)	全国平均 (%)	
鑑賞	演芸・演劇・舞踊鑑賞(テレビ・DVDなどは除く)	↓ 12.4	14.5	19位
	音楽会などによるクラシック音楽鑑賞	↓ 7.9	10.1	32位
	音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞	↓ 11.8	13.7	26位
活動	楽器の演奏	↓ 10.3	10.9	15位
	邦楽(民謡, 日本古来の音楽を含む)	↓ 2.4	2.9	34位
	コーラス・声楽	↓ 2.4	2.8	23位
	邦舞・おどり	→ 1.6	1.6	30位
	洋舞・社交ダンス	↓ 1.0	1.4	34位



これからは「心の豊かさ」か、まだ「物の豊かさ」か（時系列）



（注）上の豊かさは「物質的にある程度豊かになった上で、これからさらに豊かさを増やすべきである」という考え方に基づき、下の豊かさは「まだ物質的に豊かでない」という考え方に基づき算出された。

出典：内閣府「国民生活に関する世論調査」

